

第1課:お会いできてうれしいです

ラフィーク: こんにちは。

私はラフィークです。

お会いできてとてもうれしいです。

ファヘミーダ: こんにちは。

私は、ファヘミーダと言います。

私も、あなたにお会いできてうれしいです。

ラフィーク: ありがとうございます。

ファヘミーダ: あなたはいつから日本にいるのですか？

私は、2年間日本にいます。

日本語を学んでいます。

あなたは日本で何をしているんですか？

ラフィーク: 私は、5年前日本に来ました。

そして、大阪でスインディー語を教える仕事をしています。

ファヘミーダ: そうですか。(写真を見て)これはどなたですか。

ラフィーク: 彼女は私の妹です。

この夏休みに、日本へ来ます。

第2課:入ってもいいですか？

スレーシュ: こんにちは。私はスレーシュです。

中に入ってもいいですか？

ミーナー: はい。どうぞ。

こちらに座ってください。

スレーシュ: ありがとうございます。

DVDを返しに来ました。

とてもよかったです。

ところで、これは何ですか？

ミーナー: ああ、これは、スィンドの有名なお菓子です。

ラブリーと言います。

食べてみてください。

気に入ると思いますよ。

第3課: モーヘンジョーダローへ行ったことがありますか？

ラフィーク: 何を見ているんですか？

ファヘミーダ: これはモーヘンジョーダローの写真です。

あなたは行ったことがありますか？

ラフィーク: いいえ。私はまだ行ったことがありません。

あなたは、いつモーヘンジョーダローへ行ったのですか？

ファヘミーダ: 昨年 12 月に行きました。

カラーチーから列車で行きました。

全部で8時間かかりました。

また行きたいんです。

ラフィーク: そうですね。そのとき、どこに泊まりましたか？

ファヘミーダ: モーヘンジョーダローには、ホテルがありません。

なので、ラールカーナーのホテルに泊まりました。

ラフィーク: モーヘンジョーダローからラールカーナーまでどのくらいの時間がかかりましたか？

ファヘミーダ: リキシャで1時間かかりました。

ラフィーク: そうですね。私もいつか行きたいです。

第4課: ムンバイーへ行きましょう!

ケン: 先生、私はインドかパーキスターンでもっとスインディー語を学びたいんです。
スインディー語を学ぶにはどの街に行くべきでしょうか。

先生: それはすばらしい。

いいですか。私が思うには、ムンバイーへ行きなさい。

ムンバイーには大学があつて、スインディー語科もあります。

ケン: そうですか。わかりました。

では、ムンバイーに行こうと思います。

ムンバイーがどんな街か教えていただけますか。

先生: ムンバイーは、インドでもっとも大きな街の一つだよ。

どのくらい大きいか、そこへ行けばわかるだろう。

ケン: わかりました。では、大阪からムンバイーはどのくらい遠いのですか。

先生: 大阪からムンバイーまでは、飛行機で12時間の距離がある。

週に3回、飛行機があるんだ。

第5課:ムンバイーの空港

バルデーヴ: ケン、ムンバイーへようこそ!

私は、バルデーヴです。

ケン: こんにちは。バルデーヴさん。私はスズキ・ケンと言います。

あなたのお名前は、私の先生が教えてくれました。お会いできてとてもうれしいです。

バルデーヴ: では、行きましょう。今日はうちへ来てください。

ご覧なさい。我々は、ムンバイーの中心部に来ています。

我々の家は、海の近くにあります。

10分ほどで着きます。

ケン: ムンバイーは本当に大きな街ですね。

東京や大阪のように思えます。

第6課: スインディー料理を食べに行きましょう

バルデーヴ: ケン、今日のご飯を食べに行きましょう。

あなたに、スインディー料理を食べさせてあげましょう。

ケン: それは、すばらしい！スインディー料理では何がおいしいですか？

バルデーヴ: いいですか。我々の料理はみんなおいしいんです。

ケン: 誰かが言っていましたが、パッターや、魚、漬け物が有名だそうですね。

バルデーヴ: そのとおりです。

けれど、その料理はスインド地方ではとてもおいしいんです。

ここムンバイでは、あまり手に入りません。

ケン: そうですか。では今日何を食べるんですか？

バルデーヴ: 今日は、ジューフーでスインディー・ビリヤーニーと海の魚を食べましょう。

ケン: そうですか。ジューフーはどこですか。ここからどのくらい遠いのですか？

バルデーヴ: ジューフーは遠くありません。

ここから車でほんの 30 分ほどです。

ケン: わかりました。では行きましょう。

第7課: どうしたんですか？

バルデーヴ: ケン、どうしたんですか？

ケン: ちょっと調子が悪いんです。

熱もあります。

昨日、自分の部屋でラジオを聞いていました。

そのとき少し寒気がしました。

バルデーヴ: 薬は飲みましたか？

病院へ行った方がいいと思います。

ケン: 薬は飲んでいません。

薬はどこで手に入りますか？

バルデーヴ: あなたは休んでいてください。

私が薬を買いに行ってきます。

ケン: ありがとうございます。

薬と一緒に、水と、切手を買ってきてもらえますか？

バルデーヴ: ええ、いいですよ。

切手はどのくらい要りますか？

すみませんが、50ルピーのを7枚と、100ルピーのを10枚お願いします。

第8課: シャー・アブドゥッラティーフ・ビターイーのウルス

ケン: 私の友人が言っていたのですが、今日はシャーのウルスです。

アフマド: そうです。今、言うところでした。

私たちと一緒に、見に行きましょう。

ケン: 我々は、ウルスをどこで見られるんですか？

アフマド: シャー・アブドゥッラティーフの廟はハーラーにあります。

ここ、ハイダラーバードから車で半時間です。

ほら、これが彼の廟です。

すばらしいでしょう？

ケン: ええ、本当にすばらしいです。

すみません。歌う声が聞こえています。

アフマド: ここにはスインド中からたくさんの歌手が来ます。そしてシャー・アブドゥッラティーフの詩を歌うのです。

一晩中、歌い続けるのです。

ケン: 私は、とても気に入りました。

まだ見たことがなかったんです。

連れてきてもらって、本当にありがとうございます。

第9課：デリーへ行かなければなりません。

ケン： すみません。仕事でデリーへ行かなければならないのですが。

スレーシュ： わかりました。

行ってもいいですよ。

しかし、行く前に、私の仕事もしておいてください。

ケン： わかりました。ありがとうございます。

私の友人がデリーへ来るんです。彼に会いに行くんです。

彼に、デリーやタージマハルを見せるんです。

スレーシュ： ムンバイーへなぜ来ないのかと、行ってください。

ケン： そうですね。飛行機の席がなかったと言っていました。

スレーシュ： 前に言ってくれれば、席の手配をすることができたかもしれなかったのに。。。

ケン： そのとおりですね。

また来るように、彼に言っておきます。

第 10 課:もっとスインディー語を学ぶために

ケン: 先生、このクラスもいよいよ終わります。

クラスが終わったあと、我々は、どうやってスインディー語を学ぶべきでしょうか。

バルデーヴ: そうだね。私が思うには、できるだけ話す努力をすることが大事だね。

言葉は、使っているとうまくなります。

私は、みなさんのお手伝いをする用意があります。

いつでもスインディー語の質問があるときは尋ねてください。

ケン: どうもありがとうございます。

私たちは、先生にお会いしにムンバイーへ行ってもいいですか？

バルデーヴ: もちろんですよ。

来るのを待っています。

ムンバイー以外にもプネーやウルハースナガルも連れて行ってあげましょう。

ウルハースナガルは、「リトル・スインド」と言われています。

ケン: 私たちは、次の夏に行きたいと思っています。

そのときまで、さようなら。